

## 水無湿原のギフチョウの保護対策

### 1. ギフチョウとは

全国分布、県内の分布

ギフチョウ（日本特産種）の種類、ヒメギフチョウ（新潟長野以北、北海道）

外国では朝鮮半島、中国にシナギフチョウ、オナガギフチョウ

食草 メスが卵を産む植物、幼虫が食べ成長する。

ヒメカンアオイ、ウスバサイシン（五箇山山地、北小豆谷、草嶺の崖にある）

県東部（早月川以東）にはクビキカンアオイ

### 2. ギフチョウの発生期

水無湿原では5月下旬から6月上旬（その年の積雪量、雪解けに関わり変動）

### 3. ギフチョウ採集者の実態

- ・なぜ、水無湿原に多くの採集者が来るのか？
- ・高層湿原（全国各地にある・富山県では有峰、東笠山など）のギフチョウの羽の模様が平地産のものと違うので高価であるとされる。（科学的、学術的な根拠はない）
- ・ギフチョウの価格？（マニアは希少性を煽る）  
沢山の採集者が来るのでギフチョウは高いと地元の人が値段を付けているようだ。
- ・高価なギフチョウは稀にしか採れない（羽の壊れていない完全なもの）
- ・ギフチョウは生まれて直ぐに羽が破損するのでそのような物は価値がない。
- ・発生期を特定するのが難しい。
- ・卵を採集して育てると美しい羽のものが取れるが羽の模様が違ったものが生まれる。マニアは綺麗なもののしか採集することはない。壊れたものも採集して行くので乱獲により数を減少して行く可能性がある。（ギフチョウは青色の集まるので現地でブルーシートがあちこちに敷いてあるのを見た人があると思う）

### 4. ギフチョウの減少

- ・昆虫、チョウは少し採集しても直ぐに居なくなることはない。（その少しが難しい）更に絶滅することは極めて稀である。減少しても環境に変化が無ければ復旧する
- ・ 全国に絶滅した所はあるが採集が原因の所はない。
- ・ その原因の多くは環境破壊である（ゴルフ場、団地の造成、森林の皆伐など）
- ・ 杉林の皆伐でギフチョウが大発生することがある。（林内が明るくなってカンアオイが繁茂する）

### 5. 保護対策

- ・ギフチョウの採集期（完璧な標本となる）は極めて短い（年、変動が激しい）
- ・最適期（1週間だけ入域者を規制すれば良いが特定するのは難しい）
- ・天候の悪い時はギフチョウは飛ばない。主に土日曜日とすれば極めて短日である

### 6. 天然記念物に指定

全国にはマニアのギフチョウの乱獲に困り天然記念物に指定している所が多い

### 7. 指定の取り組み

- ・指定は県、市、地域がある。南砺市教育委員会が担当であるが良く知らない。
- ・県では教育委員会であるがこれも知らないの自然保護課に聞くが良く知らない。
- ・県内で最も良くギフチョウを知っているのが大野であるが県は私を敬遠している。
- ・昭和52年クモマツマキチョウは県指定天然記念物に指定した。全県地域定めず

2013年4月12日・大野